

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム
第 14 回会合 議事録

1. 会合の概要

日時： 2022 年 2 月 14 日(月)17:00～19:00

会場： オンライン

主催： 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数： 20

参加者一覧（五十音順・敬称略）：

飯田 陽一	総務省
上田 格	日本電気株式会社(NEC)
加藤 幹之	MK Next
金海 好彦	NEC
上村 圭介	大東文化大学
河内 淳子	一般財団法人 国際経済連携推進センター
木村 孝	JAIPA
小浦場恒人	アット東京
佐藤 信二	個人研究者
白壁 角崇	総務省
Yuji Suga	Internet Initiative Japan Inc.
関 裕介	総務省
高松 百合	JPRS
浜田 忠久	JCAFE
堀田 博文	株式会社日本レジストリサービス(JPRS)
本田 聖	個人
前村 昌紀	JPNIC
森口 友里	株式会社インターリンク
森下 大	総務省
山崎 信	JPNIC

司会進行： 前村 昌紀(JPNIC)

議事録案作成： 山崎 信(JPNIC)

2. 発言録

【前村】 そろそろ始めたほうがいいと思いますので、始めようかなと思います。

いつもながら私が司会ということで、皆さん、よろしいでしょうか。

【本田】 一言コメントなんですけれど、たしか最初にやる時、最初に、要は決め事をつくる時に、一応、順番で、議長は定めないけど、任意にやります。立候補したい人がやるということでしたよね。

【前村】 そうですね。誰かが、固定職にしないということをしていましたよね。

【本田】 ええ。なので、別に前村さんの進行に異議があるわけではないんですけど、交代でいろんな人がやったほうがいいなと。そうすれば前村さん自身もより議論に集中して参加できるというか、御自身の御意見をニュートラルに発言していただくことができるし、そのほうが利点があるのではないかと思っているんですが。

【前村】 そうですね。そうすると、今の状態だと何がいいかというと、私と山崎で話が済んじゃうところはパパッと済ましちゃえるということが結構やりやすくて、ただ、毎回、司会、私でいいですかと言っているということからいうと、代えられるんだという前提であるとするれば、もし本当に代えられることを進めていくのであれば、工夫をしなきゃいけないのかなとも思います。

【本田】 そうですね。なので、やっぱりこの前のメールでも申し上げたんですけど、山崎さんが一応セクレタリーというか、アシストしてくださっている部分は大変ありがたいと思うんですが、ただ、資料もある程度目を通して考える時間が必要ですので、今回連休がありましたので、ちょうど1日前ということではありましたが、できればこういう会議ですので、1週間ぐらい前にはコールがあって、ドラフトとしてこうですと。その時点で完成し切っていなくても、2月にやるんだったら7日ぐらい前にはこういう感じですよというものができて、そこに皆さんが追加したり、提案。せっかく提案モードになっているわけなのでね。そういうふうにして事前準備もしつつやったほうがよいのではないかと。なので、そこは山崎さんに依存するのでもなく、前村さんに依存するのでもなく、いわゆるIT的に言うと属人から避けられるのではないかと、そういう意見があります。

今日のところは前村さんが進めていただくことに私は異議はありませんが、誰でも司会ができる状況にしておくというのが理想ですね。

【前村】 そうですね。せっかくなので、そうしたほうがいいですね。

【本田】 そういうコメントでした。

【前村】 確かにそういうふうに指摘されると、何となく私と山崎でできる範囲でやっているみたいなの、そういうところもありますので、例えば1週間前にドラフトで、じゃあ、これに書き込んでくださいみたいなことを言って、リンクを提供するようなことで、皆さんのほうで書き込んでいただけたらなんかするのであれば、そのほうがいいのかもしれないなとちょっと思ったりしました。

と私自身は思っているんですけど、山崎がどんな手はずが整えられるのかというののちょっと相談して、

できればそんな感じでやれたらと思いますので、皆さんよろしく申し上げます。

本田さん、ありがとうございます。

【山崎】 山崎から一言言わせてください。本田さんのおっしゃることは非常にもっともなんですけれども、1週間前に資料の準備もとなると、ちょっと今の3週間、かなり厳しいです。月1回ぐらいに頻度をちょっと減らさせていただきたいなと思った次第です。

【本田】 そのところは分かっているんですよ。無理を言いたいわけではなくて、皆さんと一緒に進行しやすく、しかも限られたタイトな時間、2023 というのは限られたタイトな時間でやっていく中で、ある程度毎週毎週3週間というスパンが短めに感じるかもしれないけど、それだけリソースをかけてやっていかないといけないと思うんですね。だからリソースがないからできないというんじゃなくて、リソースをつくるためにどれぐらいの作業が発生しているというのが明らかになっていくべきで、もちろんそこも私が口だけ言うのではなくて、できる限りさせていただけること、個人の立場でさせていただけることはさせていただきたいと思っていますので、JAIPAのどなたか忘れましたが、「どうなっているんですか、タイムライン」というメールがありましたけど、それは山崎さんに言っているんじゃないで、皆さんでつくり上げていくものだと思いますので、誰かの作業待ちということは全然発生していませんので、そういうふうな認識では私は少なくともおりませんので、皆さんで共用して、皆さん、それぞれのお立場でお忙しいと思いますので、その中で少しずつでも、寄らば文殊じゃないですけども、リソースをお分かちいただきながら前へ前へ進めていただきたいと、そう思っております。

【前村】 そうですね。資料が1週間前にばっちりできているというのは、ばっちりなんていう言葉を入れちゃいましたけど、無理なんですよ。そうじゃなくて、恐らくはアジェンダシートみたいなものであれば1週間前には出るだろうし、こういうことを議論するんですね、だったらこんなことを話してみるといいですよ、みたいなことを皆さんからたくさん言っていただければ、少しイメージどおりのものに近づくんじゃないのかなというふうな気が私はしましたので、何をどんな感じで工夫できるのかというのはちょっと考えてみたいと思います。

3週間というサイクルはまあまあワークはしていると思うんです。山崎さんはやっぱり大変だよと思うんですけど、そこをどうやって工夫できるかというのをちょっと考えてみましょう。最終的に結果的にあまりいいアイデアが出てこないのかもしれないんですけど、そこに関してちょっと考えさせてください。

そのほか、そういうレベルのお話が今あるんだったら、ぜひとも伺ったほうがいいかなと思うんですけど、いかがですか、皆さん。

それでは、本日のお話を進めてまいりたいと思います。前回の議論の振り返りということなんですけど、第13回会合の概要というのはそこに書いてあります。これ、口で言い出して読み始めると長いような気がします、要約すると、報告会の準備をしましたよねということと、IGF2023に向けた取組というのは、これは飯田さんから御説明があったこと。MAGのメンバー、ちなみに河内さんは少し遅れられるというふうな連絡をいただいているようですが、の御紹介があったこと。で、報告会の比較をやったこと。次のページ行きますかね。報告会に関しては、13回の会合というよりも報告会どうだったかという話で、今日振り返るというふうなことでありますので、そちらでいいんじゃないでしょうか。

それでスケジュールに関して、グローバル IGF と同様のテーマ募集をしてみてはどうかというふうな話がありました。

それから、組織化の議論をしまして、組織化に関しては、幾つか、結構いろんなアイデアのすり合わせというのとは違いますね、アイデアが出てきて、それを戦わせたというのも変なんですけど、出し合っ
て、あれこれと議論をしたというふうな感じがありました。

それで、組織化に関しては、反省会の中でもセッションをとりましたというふうなことであります。

それで、宿題のほうの確認なんですけども、これ山崎さん、何かコメントがあればお願いします。

【山崎】 大半が議事録関係ですね。第7回までは済んでいて、8回以降はちょっとまだ作成中。あとは、事前会合と報告会関連で、報告会のほうはまだ動画とかができてないという状況です。資料と録画を公開するというのはなるべく早くやりたいと思っています。

議事録ができない分は、録画を公開して、これで代えるというわけではないですけども、追いたい方が追えるようにするというので、12回と13回はラストコールが終わりましたので、もうすぐ掲載できるようにしたいと思います。

【前村】 本田さん、お願いします。

【本田】 この前も言ったんですけど、山崎さんのアサインが多いんですね。別に何か文句を言いたいわけではないんですけど、お一人でもし抱えてらして、何か障害になっている、本業というか、本業と言うとちょっと変ですけど、ほかにもお務め、お役目があると思うので、JPNIC さんの中でね。だから、一部委託して、音声起こしを、文字起こしを委託しているとかという話もありましたけど、例えばやり方として、議事録というんじゃなくて、発言メモというふうに散文な形にしておいて、録画は全公開でやれば、録画って、あれ、ユーチューブ、自動的に字幕にしてくれますよね、たしか。だから、それでトランスペアレンシーというか、ダイバーシティの面でも別に満たしていると思うし、全部の全部議事録なくてもいいのではというふうな見方もあると思います。

それより IGF 報告会は資料だけはもう出ているはずなので、それだけでも先行して出せませんか。録画は一応確認というか、一応チェックも入るかもしれませんが。

【山崎】 山崎ですけども、まだ横澤さんからしか資料をいただいてなくて、ほかの方から資料が出てない状態です。ですから、資料を使って発表なさった方は、飯田さん、渡辺さんですかね。資料を提出お願いします。

【本田】 事前にもらっていたんじゃないですか。

【山崎】 いや、事前にもらったのは横澤さんだけです。

【本田】 じゃ、全部本番として出しのやつで、皆さんが自分の PC でやったから、事務側、運営側ではもらってなかったという。

【山崎】 そういう方もいらっしゃったので、資料がある方はお三方だけだと。

【本田】 それ前回の反省でも言いましたが、事前にもらわないと、何かあったときのトラブル対応というのが、別にこっちから映す、映さないというのは別として……。

【山崎】 それはお願いしているんですけど、向こうも、発表なさる方も、ぎりぎりでお忙しいので、そんな余裕を持って出せなかったということだと思いますので、そこはそれ以上強くは言えないですね。

【本田】 それはそうなんですけれども、要は、対外的に見たときに、ここに出ている人は全部分かるわけで、いいんですけども、対外的にウェブだけを見ている人は、報告会、1週間もたっているけど、資料も出ないのかなとかと思う人もいると思うんですよ。別にそういううがった見方をしたいわけではないですけどね。

【山崎】 現実を見てください。できることは、もちろんやりますけども、できないことは、いくらプッシュしてもできないので。おっしゃることは分かります。

【本田】 ですから、そのところは山崎さんにむやみに負担をかけているのではないかとこのところを危惧しています。議事録の件と資料の取りまとめというところで。私からのコメントは以上です。

【山崎】 そこは、取りまとめてくださる方が別にいらっしゃるとありがたいなとは思いますが。そこは報告会の反省のところでも議論できればと思います。

【前村】 この辺も、おいおいというのか、適宜というのか、御意見いただければいいと思うんですけども、今、議事録に関しては、発言録の再録を業者に出すということを、先ほども出てきましたけども、をやって、まあまあクォリティーで上がってくるようなんですね。それで発言録というレベルで出すんだったら、割とパンと出せるようになりつつあります。

一方で、意味を追おうとすると、あまり意味がないというのか、少し要約していかないと、読み進めて過去の議論を追うということにはやはり不向きだなあという気がする。あるいは、録画をアーカイブしておけば同じような品質のものが担保できるということなんじゃないのかなというふうな気もしています。

したがって、意味を要約した議事録を作るというのは結構高度というのか、取り組みにくいことになっちゃっているなというふうなところで、それをただやりたいはやりたいなという感じはするんですが、どの辺のところでも踏ん切ってやっていくのがいいのかなというのはいちよっと思いたいと思いますね。

なので、そういうふうなコメントでございました。ごめんなさい。

【山崎】 ちなみに、議事録は前村が申したとおり外注に出しているんですけども、発言録ですね。議事録のほうも作成したらどれぐらいかかるかということ聞いてみたら、発言録をつくる10倍の費用を見積もられましたので、ちょっと無理でした。

【本田】 大体幾らぐらいかかるんですか。

【山崎】 発言録が数万で、ちゃんとした圧縮した議事録にすると数十万ということですよ。

【本田】　　そこまでコストをかける意味があるかどうかというですね、今の段階で。これは別にボードメンバーというか、いわゆる取締役会でも何でもないので、あくまで皆さんでどう進めていくかというところを話しているだけなので、記録はもちろん必要ですけども、発言の一言一言まで重要になってくとも思いませんし、かといってすごいラフな発言メモでいわゆる議事要旨みたいなものでもちょっとラフ過ぎるかなというのは私の率直な感触です。

【前村】　　ちょっとポイントが見えなくなっちゃったんですけど、発言録はできちゃうんですね。こっちのほうは簡単なんです。ただ読みにくいんですね。意味をとった議事録を作ろうとすると、結構これは、出せばお金かかるし、高度なことだということ。ラフなメモというのはあまり考えていないのかなという感じはしますけどね。あとは、具合に、あんばいによるという感じなのかもしれないし、うまくできる人はぱんとできちゃうという類いのことかもしれないですね。

どの辺のところを狙っていくかというふうなことでもあって、それは皆さんのお考えで、これくらいでいこうよ、この際というふうなのがあるのであれば、そこに合わせていけばいいんじゃないのかなと思うんですけど、今のところは、どういう議論をしてきたかというのを記録して次の人たちに残す必要があるというふうな、最初実積先生の御指摘に、その意義をいまだ取りあえずはどうか実現したいなど思っているところなんですけど、なかなか状況が変わっていると言ってもいいのかもしれない。分からないですけどね。

というわけで、もうちょっと考えさせてください。といって、次回も同じような話が持ち上がるのであれば、パッと決めちゃったほうがいいのかもしいかなもしれないですけど。

【本田】　　やり方とかは別に異義を唱えるわけではないんですけど、あまりに公開を待っている議事録が増えてきちゃうと、それはタイムリーということではない。要は時間の利益というのがあるので、多分、出すタイミングが遅過ぎると、流れちゃって意味ないよということにもなるわけなので。

【前村】　　そうかもしれないですね。

【本田】　　ここに皆さん出られる、全員出られるとも限らないし、なるべく出たいと私は思いますけど、ここに出てない方、もしくは一般社会に向けてもやっていることはちゃんとしないといけないので、やり方の細かいところにこだわっているよりも、まず出すということ。その精度については、またおいおい、おいおいと言うとあれですけど、もう少しお金をかければできるねという話をしていけばいいので、そうするとこれぐらいお金必要だねという話に……。

【前村】　　分からなくなっちゃいましたね。ラフなメモじゃ駄目ってさっき本田さん言っていませんでしたっけ。

【本田】　　いやいや、ラフなメモという、ごめんなさい、議事要旨というところのすごい要約のワンペーパーみたいなものではないが、議事録ほど、1行1行私が言ったことがそのまま文字になっているというレベルまでやると数十万かかるわけですね、1回。

【前村】　　違います。発言録は何万かなんです。それを要旨というのか、例えば言いよどみとか、同じこと繰り返しているとか、というのを省いて、こういうことを言っていたということを議事録で取ろうとしたら10倍かかると言いました。

【本田】 そうすると、そういうことになるわけですね。じゃあ、今発言録というのは、僕が、えーとかあーとか言ったのも全部そのまんまだ文字になっただけの、本当に文字化しただけというところで数万円でできるわけですね。

【前村】 えーとかあーとかぐらいは切れるんでしょうけど、そのレベルですね。なので、それぐらいであれば割とタイムリーに出てくるということは、やっとな準備ができるようになって、それを抛出することは JPNIC としては今のところ問題はないので、そのレベルであればいいですよ。

【本田】 了解です。

【前村】 今、組織化議論をやっているんで、組織ができた暁には、そこが担ってくれればいいんだろうなと思うんですね。せいぜいそれぐらいが今の手弁当でやっているとこのできることであって、もう少しコンデンスした議事録で、それを読んだら割とクイックに議論がある程度正確に分かるみたいなものを作りたいんだけど、それはできないんだなというのが今今だと思うんですよ。

ということで、そんなところじゃないかなと思っています。

【本田】 はい。なので、組織化に向けてもタスクが明らかになって、どれぐらいの工数かかる、費用かかるというのが算定できる根拠が出てくれば、それはそれでプラスだなと思っています。

【前村】 そうですね。

【本田】 そういったところでアグリーです。

【前村】 それはそうだと思います。

ありがとうございます。これくらいにして次に行かないと、これで 30 分になっちゃいますかね。行きましょう。

それでは、政府の検討状況の御報告ということで、毎回いただいておりますけども、これ、飯田さんでよろしいでしょうか。

【飯田】 飯田です。ありがとうございます。省内での検討状況とかだけお話ししていると、あんまり毎回毎回お話がなくて、寂しいので、ちょっと次のスケジュールというのとかぶるかもしれないんですが、今、当面見通していることをお話ししておこうと思います。

ワードなので、見やすくなかったら申し訳ないんですが、前に英文で共有をした事務局から発表されている今年のスケジュールですね。これを書き起こしてみると、1 本目、こんなふうになっていますと。テーマのインプットというのが今日が締切りでして、我々、これ、投入するんですけど、もしできる方がいらっしゃれば投票していただいてもいいかなと思います。

23 から 25 日にオープン・コンサルテーションの第 1 回目と MAG の会合というのがあります。ここではメインテーマをどんなものを設定するか。これ、前お話ししたとおり、去年は 6 個のテーマが設定されて、メインが 2 つに、あとプラス 4 個という形で設定されたわけですけど、こういう議論が本格化します。

それから、セッションのタイプとか、数とか、こういうものも議論が始まります。

4月2日から5月20日の間にセッションの募集というのがかかります。ここに日本のコミュニティーとして何か提案するかどうかですね。これはもちろん今年のエチオピアでのIGFで、例えばワークショップとかオープンフォーラムとかを何かやりたいですかという問いかけですので、日本のNRIとしてと
言っているのかどうか分かりませんが、提案をしていくかどうかというのは一度御検討いただいてもいいのかなと思っています。これは事務局が分析した後、MAGで議論されて、選定がなされることになっていると思います。

あと、4月の後半からビレッジ・ブースというやつとリモート・ハブというのも募集があるそうで、ビレッジ・ブースというのはいま一つ把握できてなかったんです。実開催のときだとブースがいっぱいあっているんな展示があるんですけど、実はオンラインのブースというのもあるそうで、今出します。こんなのがオンライン上であって、アバターになって展示を見るというのがあったそうで、私は全く認識できてなかったんですけども、中には御覧になった方もいらっしゃるかもしれません。

こういう形で展示をやったり、現地でブースを出したりしたければ応募してくださいということです。

それから、戻って、リモート・ハブというのは去年からたしか始まったもので、地域の会場を、パブリックビューイングみたいなもので、現地の様子をウェブキャストで見たり、あとインタラクティブにそこへ参加することもできるようになっています。これも設置するかどうかですね。これも御検討いただいてもいいのかなと思います。

それから、その後、ワーク評価というのが行われて、多分6月の22日から24日に第2回のオープン・コンサルテーションとMAGをやるので、ここでワークショップの選考とか、いろんなセッションのレビューがあったり、あと、あんまり認識してなかったんですが、Day 0の主催というのもここでレビューがされるようです。大事なメインセッション、大きな重要なセッションの議論もここであると。

ただ、実はこれ、6月22日から24日というのが、今、EuroDIGですかね、ヨーロッパのコミュニティーのほうからかぶっているという意見が出ていまして、日程が再調整になるかもしれません。グローバルのほうがリージョナルに合わせなきゃいけないということで、EuroDIGは非常に参加者の数からしても力があるようでして、グローバルのほうの日程を変えるということです。

7月から8月にかけては、事務局の案があって、8月の半ばぐらいから、これは各皆さんの参加登録が始まって、そして秋に第3回のオープン・コンサルテーションとフェース・トゥ・フェースのMAGがあって、ここで大体セッションとかプログラムがある程度固まってくるということになると思います。

去年だどこの後に準備イベントというのがあって、オンラインで各テーマセッションの準備状況とか議論の中身を紹介するようなセッションがあったと思うんですが、これ実際には9月のおしまいのほうって国連総会とかとかぶるので、結局11月の頭ぐらいに引っ越して、そこでやって本番を迎えたという経緯だったと思います。今年同じようなことがあるのかどうかはプログラムを見ただけでは分かりません。

最終的には11月から12月にIGFエチオピアがある予定ですが、現地開催になるかどうかはまだ検討中ですけども、エチオピアのほうからは現地開催で11月末ぐらいの日程を検討している様子がある

うかがわれるようで、事務局のほうも、今、コミュニケーションを取っているようです。

ですので、これを見ながら、来年、またこんなようなスケジュールで、日本開催についても、セッションの選定とか、テーマの形成とかいうのが順を追って進みますので、来年は主催国としてがつつり組み込まなければいけない。

一方で、今年、練習も兼ねて、できれば少しでも参画いただければと思っていますし、我々もセッションの提案とか、あるいはもしかすると、将来、将来というのは来年ですけど、ホスト国としてももう少し役割を果たさなきゃいけないのかもしれないので、そこはIGFの事務局とも相談しながら、例年以上に関与して。実は最終的に来年の開催が認められるには、IGF事務局から視察団が来て、候補会場も見て、一応お墨つきをもらわなきゃいけないことになっていまして、これが今年の前半に、早ければ今年の前半と言っていたんですけども、ちょっとコロナとか、いろいろあるので、恐らく夏以降になっちゃうんじゃないかなと思いますけども、そこで視察団を受け入れて、会場を見せたりすることになります。そのときには、ちょっとはつきりは覚えてないんですが、たしかIGF、その国のナショナルコミュニティとか、あるいは政府でも、財政当局とか、いろんなところに面談をして帰るんだそうですので、皆様にもいろいろお願いをして御参画いただくことも出てくるかもしれません。

今年は予行演習みたいなものですけども、来年に向けて、このスケジュールも見ながら、来年のいつ頃に何が起きるか、そうするとそこからバックキャストして、今年のいつぐらいに全体の体制を最低限立ち上げていかなきゃいけないか。そのためには省内の体制づくりとか検討状況をどうするかということはいまだにちょっといろいろ議論していまして、実を言うと、今お話しした制度なんですけど、実は、もう御案内だとは思いますが、今年の後半には、GPAI (Global Partnership on Artificial Intelligence) というAIの国際機関ができていまして、そのサミットを日本でホストすることになっています。

それからその後、OECDの閣僚会合は、日本のホストは降りたので、スペインで開催されるんですが、23年の前半には皆さんも御存じのとおりG7の各関係閣僚会合が開かれて、恐らくデジタルとか情報通信関係もあると思います。

ということで、ちょっとイベントがずっと鈴なりになっていまして、かつ中身的にもある程度関連性があるということで、私どもも、その辺も関連させながら準備していこうとしています。

AIとか、あるいはG7であればデータ流通とか、インターネットの安全性とか、そういうことも議論していきますので、ある意味、来年の年末ぐらいに開かれるIGFの2023が全部の集大成みたいな形になればいいなとも思っていますので、各会合、全然形式も違うんですけども、中身的にはそれぞれがそれなりに連関していますので、そういうものも見ながら、あるいは皆様とも情報共有しながら進めていこうと思っています。

これがスムーズに動き出すところまでなかなかいなくて申し訳ないんですが、幾つかあるのをまとめて、悶絶しながらやっているような状態です、お恥ずかしながら。一応、省内の検討状況も少しずつは進んでいますが、ちょっと今日は全体的なスケジュールを御案内したほうが、先行きの見通しとして皆様に準備していただけるかなと思ってこれを用意いたしました。

すいません。ちょっと長くなりました。以上です。

【前村】 飯田さん、ありがとうございます。コメント、質問などありますでしょうか。本田さん。

【本田】 飯田さん、いつもありがとうございます。2点なんですけど、1つは、今お見せになったワードは一応ラフなメモということでしょうけども、グループ内には共有後ほどしていただくことは可能そうでしょうか。

【飯田】 今のワードのメモは、基本的には IGF 事務局が公開しているものを翻訳してちょっと味つけただけですので、これはグループ内では共有いただいて結構です。

【本田】 後ほど飯田さんのほうから今の発言の要旨も含めてメールで送っていただけるということをご期待していいですか。

【飯田】 分かりました。簡単になるかもしれませんが。

【本田】 できる限りで結構だと思います。別の JAIPA の事務局長からもそういう確認が入っていましたので、本来であればある程度みんなでやっていくべき、リサーチしていく部分もあると思うんですが、まずはそのところを取っかかりとして、ここで調べられている、調べというか、政府側の動きも含めて御提供いただければ助かると思います。

2点目は、ポイント・オブ・コンタクトということで、やはり飯田さんはお聞きしたところによるとかなり高官の方でいらっしゃるようなので、当然 IGF 以外の案件もお抱えになっていると思うんですね。そういった場合に、我々、この前も御相談いただいたんですけども、そういったときに、何か事務的な連絡とか問合せとかをする場合に、やはりポイント・オブ・コンタクトの方、どなたかアサインしていただいたほうがよろしいんじゃないかというふうな意見があります。別にレスポンスがとかという意味ではなくて、やはりそのほうが皆さんとのより、皆さんというのは総務省とのより密なコミュニケーションが進むと思いますし、この検討グループというか、活動グループも、より皆さん、総務省側との、もしくはひいて言えばもう政府全体とのコミュニケーションがもっと肝要になってくる、もっとトラフィックが出てくるとしますので、そういった方向性を御検討いただきたい。

実はこれ、11月の頃にも一度申し上げたような気がするんですけど、省内、体制を考えますということをしてたしかお話しいただいたと思うんですが、改めて体制づくりというか、御検討いただきたいと。それは単純に総務省の中だけでなく、領域としては、デジタル庁ですとか、消費者行政であれば消費者庁であるとか、当然経済政策ですから経済、もしくは場合によって内閣になるのか、青少年関連であれば内閣府になるのか、その辺りは、我々が一々調べ、一々というか、全部に当たっていくというのもコスト的にもできないことですので、皆さんの力を、総務省の皆さんのまずお力をお借りして、IGF というところから取っかかりにして、広くインターネットガバナンスというところにつながる、それぞれの政策につながる足がかりとなっていけば、これが 2023 以降に向けた布陣というふうにもなると思いますので、そういったところも含めていま一度体制づくりというのを御検討いただけないかなという提案です。

【飯田】 ありがとうございます。全然高官でも何でもありませんが、総務省の窓口としては、ぜひ私も含めて、国際戦略局の IGF 担当のラインとあとデータ通信課のラインがありますので、ここで

皆様とコンタクトをスムーズに取れるようにしていきたいと思います。ちょっと十分レスポンスができなかったり、いろんなことがあって御不便をおかけしていたら申し訳ありませんけども、その上で、関係省庁は順次巻き込んでいきつつありますので、そこはまた内部でも相談しながら進めていきたいと思っていますので、リストみたいなものをお示しするのがいいかどうか、中でまた相談させていただきたいと思いますが、御意向はよく分かりましたので、検討させていただきます。

【本田】 ありがとうございます。誰に聞いたらいいのかというところで、まず本当に電話帳だけでもいいので、それは御提供いただけるとすごく話がやりやすくなるのではないかと思います。御理解、認識を共有できてよかったと思います。

ついでながら、別の……。

【前村】 すみません、本田さん、ちょっと先行きたいんですけど、駄目ですか。

【本田】 一言だけ。これは連絡ということだけなので。別の ML、このグループに派生する前の IGCJ のほうで別の声がありましたけど、この前終わった IGF のレポートというのは日本政府としては提出はどうなっているんでしょうか。

【飯田】 すみません、それはフォーラムセッションのレポートでしょうか。

【本田】 そうです。ポーランドでやったときの。日本政府としてお出になったセッションの話。

【飯田】 我々が主催したセッションのレポートを作らなくちゃいけない、出さなきゃいけないんですけど、ちょっと提出先が分からなくて、今、そのまま止まっちゃっています。

【本田】 調整中ということですね。

【飯田】 そうです。

【本田】 安心しました。

【前村】 堀田さん、お願いします。

【堀田】 堀田です。飯田さん、どうもありがとうございます。ちょっと 1 点気になったことがあって、2023 本番に向けて視察団が、夏ぐらい、夏以降にいらっしゃる。そのときにいろんな人、いろんな人というのは、政府、それから、政府じゃない民間とかと会ってヒアリングするという話があったということは、飯田さんの感覚でいいんですけど、NRI が夏までできて、NRI の会長はこの人なので会ってくださいとかという形がとれてないと格好つかないという感じですかね。ざっくりした質問なんですけども、もしお答えいただけるのであれば。

【飯田】 ありがとうございます。ないと駄目とか、ないと格好つかないということではないと思います。あったほうが望ましいだろうとは思いますが、必ずしも NRI にインタビューするよとはっきり言われたわけでもない。ただ、いろんな関係者に準備状況とか、やる気とか、状況をお聞きしていくことになる。ただ、日本についてはほとんど心配してないというような話で聞いておられて、具体的にはまだこれからどんなところを回りたいのかとかいうのを聞いていかなきゃいけない段階ですので、少なくともそれがないとまずいというようなことは聞いてないです。

【堀田】 分かりました。ありがとうございます。ということは、いろんな関係者に会いたいんだよというふうに例えば飯田さんなりが言われたときに、この人とこの人とこの人かな、位は言えないといけないというのは、どうもそんな感じですね。という感覚を受けました。ありがとうございます。

【前村】 ほかにありますか。

よければ次に行きたいと思うんですけども、レディーかな。2022年度のスケジュールについてということで、これは山崎さんに振りたいところなんだが、ちょっと今のタイミングで離席しているかもしれないので。離席していますとバックチャンネルで言われて、そのタイミングでこのタイミングが来てしまいました。

というわけで、こういうタイミングで共有したいことがあったり、御質問などあれば、いただけるといいかなと思います。

【上村】 上村です。よろしいでしょうか。

【前村】 上村さん、お願いします。

【上村】 チャットに書き込んで、私も堀田さんと同じ疑問を抱いて先ほどの飯田さんのお話を伺ったんですけど、ということを書いたら、自己紹介ってどういう意味ですかって本田さんからコメントがついたので、どういうことを考えていたかということ、私たちはジャパンナショナル IGFのコミッティーのメンバーなんですと言うのか、それともプロビジョナルグループのメンバーと言うのか、あるいはインサージェントだと言うのかよく分からないんですけど、どういう立場で、国連の人たちと会うとしたら、この中の誰でもいいんですけど、誰かが会うとしたら、どういう立場で会うんだろうなと素朴に思ったということです。

それまでに NRI のやり直しが完結しているのがいいかどうかというのはよく分からないんですけど、素朴に、ああ、こういうタイミングが来たんだなと思って先ほどのメッセージをチャットに書き込みました。

【前村】 ありがとうございます。今やっているこの営みが日本の NRI の正常化に必ずや寄与すると私は信じているんですが、したがって、その頃までには「NRI でーす」って、「でーす」というのは軽いですね、言えるようになっていけばいいなと思うんですけどね。山崎さん、戻りましたか。

【山崎】 はい、戻りました。

【前村】 スケジュールのところ行きましょうか。

【山崎】 木村孝さんがいらっしゃったらよかったですけども、ちょっと別件があつて途中退席なさるということだったので、最初いらっしゃって退席されていたら大変申し訳ありませんが、これをなるべく早くやろうとしていました。

飯田さんの御説明とかなり重複するんですけども、木村孝さんのほうから 2023 年の IGF に日本からセッションを提出したいんだけども、どういうスケジュールなんだというふうな御質問だったかと思っています。

飯田さんの説明でもう聞いているとは思いますが、大体毎年 IGF のスケジュールというのはそんなに大きく変わらないと思いますので、先ほど飯田さんがおっしゃった中身をなるべく書き込んでみました。ですから、今年のセッション募集開始が4月2日で、締切りは5月20日ということですので、2023 も同じ時期だとすると、来年の3月までにはセッションを応募できるように準備をしておく必要があるかなというところですね。

去年のスケジュールもちょっと見てみたんですけど、大体 MAG の会合が2月、6月、9月とあるのは毎年変わらないようですので、2月の MAG の前にテーマ募集、6月の MAG の前にセッション募集という感じで進んでいるんだと思います。

ですから、我々も何かしら IGF2023 で議論したいことがあれば、2023 年3月までに準備を済ませてね的な、というか、それ単発ではなくて、スケジュールを、飯田さんが書かれていたようなものを共有すれば足りるのかもしれませんが、そういうアウトリーチというか、働きかけはしたほうがいいのかもしれませんが。

そんなところでしょうか。あとは、グローバル IGF だけじゃなくて、我々自身、どういう今年、来年のスケジュールをしていくかというのがありますが、前回の会合で私が案として最初にテーマを募集して、それからセッションとしたところ、皆さんから、テーマを絞るほどそもそもセッションが出てこないだろうということで、セッションを1次募集、2次募集みたいなふうにしたほうがいいんじゃないかという御提案がありましたので、そういうふうには今年のところについては書いてみましたというあたりですね。

セッション審査以降は変わらないですけども。

日本政府のほうは、飯田さんのほうで進めていただいているわけなので、それが決まったらここに追記するぐらいなんですけども。

あと、組織化のほうもいろいろ議論があって、結論が出ればここに書くという、そんな感じじゃないかと思うんですが、ちょっと今私がここで何か書けることはないと思って空白にしていますという感じですね。

2023 年のほうもほぼ同じですけど、ちょっとここはかなりざっくりした内容しか書いてなくて、ということなので、皆さんで、これ、コメント書けるようになっていきますので、後で書き込んでいただければと思います。

私からは以上なので、皆さんから御意見なり、御質問なり、いただければと思います。

【前村】 皆さん、いかがでしょうか。

本田さん、お願いします。

【本田】 私ばかりしゃべるのは平等でないと思うんですが、2023、今年が 2022 ですから、2022 のエチオピアでしたっけ、それとやることを 2023 も多分なぞるんじゃないかなと思っています。

なので、今年の本番は別の国ですけども、同じプロセスというのはある程度知っておいたほうがよく

て、もちろん日本政府側がやっていただけるもっと事務的なこととかいうのはあれですけども、できる限り流れは、トレースというか、たどっておいたほうが、まねしておいたほうが後々よいのではというふうに感触を持ちました。

ただ、ちょっと私も正直、これが、どこがどうなっているのかというのはまだ把握できていないので、もしこの資料の下調べとして、何かソースですね、どここのサイトで見たとかいうのがあれば、それを追記していただくと、より皆さんが参照するのに役立つのではないかと思います。

【前村】 本田さん、ありがとうございます。ほかにありますかでしょうか。

これは？ これをプロジェクトしているのは？

【山崎】 山崎ですけども、これが去年のですね。多分飯田さんはこれの今年版を御覧になってワードを作られたんだと思うんですけど、これ公開されていたので私が拾えたわけですけど、ちょっとURLが掘り出せなくて、すみませんが、後で調べておきます。こういうものが出ていますということで、御紹介です。

ですから、もう公開されているのかもしれませんが、今年も案がもうすぐ皆さんも入手できるはずですよ。

【河内】 すいません、河内ですけども、公開されています。この間、私、前々回ぐらいに御紹介したと思ったんですけど、後でそこに張りつけておきます。

【山崎】 すいません。前回の発言を追ってましたら、既にスケジュールは御紹介いただいていたかもしれません。その辺、酌めてなかったらすいません。

【前村】 2022年に何やっていくかということですよ、つまり、これって。

【山崎】 はい。ゴールはそういうことです。

【前村】 そうですね。それももちろん考えていかなきゃいけないですよ。グローバル IGF の歩みが今紹介あって、それに対して、幾つかあるんじゃないですかね。IGF2022、じゃないや、ごめんなさい、我々、この活発化チームというのか、国内 IGF 活動の活発化という観点から何をするかと。ちなみに2021年は、事前会合をやって、報告会をやりました。2回やりましたと。来年はどうするんでしょうかと。

ちなみに、本会合というのはやってないんですか。名前的なものなんですけども。結果的には事前会合が、かなり本会合というのか、ナショナルレベルでインターネットのガバナンスに関するあれやこれを議論したということで、かなり本会合に近いというんですかね、年次会合という言葉にしましょうか、をやったんですけども、2022年はどう考えたらいいのかというところがあると思うんですよ。

もう一つは、今、ちょっと別口で議論しています組織化という話があって、今、これ、表の説明をしていますよみたいな話になっちゃっていますけど、2023に向けた準備活動の流れがあって、もう一つあるかなと思うのは、活発化で事前会合とか、活発化チーム主催の会合というのを何度かやるということと、あとは、グローバル IGF 人に対して提案をするみたいなことというのをファシリテートして我々

の中で何かやるのかどうかということですよ。

前に IGCJ で一度そういうふうなことをやってみたということがあったんですけども、どうにかこうにか頑張って、1つ、2つ、3つ、4つぐらいだったかな、セッションをつくって出したような気がするんですけど、その辺の活動をしていくのかと。

全体的に 2023 に向けて盛り上げていくのにはどういうふうなメニューがいいのかというふうな話なんだろうなと思うんですが、そんな観点から、皆さん、御意見やコメントなどあったらいただけませんか。

ちなみに、活発化チームの前のほうの議論でこういう大線表みたいなものを書いてみたことがあるんですけど、それとこれはどれくらい同じなんですか、違うんですか、山崎さん。

【山崎】 すいません。パソコンが非常に重くて、コントロールボタンが出てくるまで非常に時間がかかりました。今映しているのが初回なので、高松さんがつくっていただいたものですが、これは線表というか、やること、やったらいいことを全部洗い出しているという感じです。だから、スケジュールとしてこうこうこうというよりも、こういう項目があるんじゃないかという御提案です。

もう一つあったんですけど、そちらはもっとシンプルで、活発化チームがすること、毎年すべきことを書いていただいているという、そんな感じでした。

だから、それに単純に追記すればいいという感じではちょっとなかったように、私はつくっていて思いましたが、ほかの皆さん、違う意見があるかもしれませんけど、私の印象はそんな感じです。

【前村】 ありがとうございます。上村さん。

【上村】 順不同で思いついたことを申し上げると、まずさっき本会合という名前が、年次会合か、という名前がありましたけど、いつまでも事前会合と言うのは腰が引けている感じがするので、もし先ほどのイメージに沿って NRI の組織が晴れて改めて組成されるだろうということだったら、そろそろ事前会合じゃない名前を出したほうが良いような感じがしました。

それからもう一つは、多分 IGF の 2023 が 11 月の下旬ではなで出ていますが、のだとするならば、多分その場で私たちがジャパンナショナルコミュニティですと言えるような感じになっていたほうが良いよなと思いました。

なので、逆算すると、会場視察までに間に合わなかったとしても、IGF2022 のときまでには、やっぱり次のホストカントリーのコミュニティとしてちゃんと顔が出せるようになっているのがいいんだろうと思いました。

それと、2023 年で日本で開催されるということに本当になれば、多分想像するに、今まであまり IGF のこと考えてなかった人たちが、いろんなところから宿題出されて、セッションを持ったり、会議に参加したりすることになるんだろうと思うんですね。そうすると、その予行演習として、2022 年の本会合、年次会合、準備会合にはその人たちが来てもらえるようになっていたほうが良いような気がします。

なので、そうすると、国内の会合と、エチオピアですか、11 月にあるグローバルの IGF の会合と、最

低1回ずつ、予行演習というか、見学ができて、23年に臨めるのではないかという気がするので、23年で日本でいろいろと役割を担わされると言うと言語弊があるのかな、でも、役割を担うことになる人たちが、22の国内の会合に来てもらえるようになっているのが、それを目指すのがよいのではないかと思います。

以上です。

【前村】 ありがとうございます。具体的にそういう線表感が出てきますよね。かなり上村さんのおっしゃったことのイメージに沿った感じで私の頭の中もなっているなと思います。

そのほかありますか。

【上村】 すいません、もう一つありました。これ質問なんですけど、セッション、1次募集開始が4月になっていますけど、これっていろいろ準備が整うのが4月中旬だというイメージなんです。それとも、準備は早めにはできるけど、4月中旬になるまで募集開始を待つということなんです。どんなイメージでしょう。というのは、募集開始から締切りまでは長ければ長いほうが良いと思ったので、その辺のイメージがあればお願いします。

【山崎】 山崎ですけども、あまり深く考えてないんですが、年度が変わってからのほうが皆さん動きやすいかなというぐらいなので、1次募集の開始を一月ぐらい早めるのは全然オーケーだと思いますけど、そうすると、もう今月中ぐらいには募集イメージを明確にしておかないと、来月募集は開始できないと思います。

以上です。

【上村】 分かりました。ありがとうございます。

【前村】 本田さん。

【本田】 今、セッションを4月中旬とセットしているけども、早めることはいかがかという提案がありましたけど、私も早めることには賛同で、なぜかというところ、2022の本番のIGFのほうがセッション募集開始が4月2日に始まることを考えると、それとほぼ同時期か、それより少し若干早いぐらい、3月の下旬ぐらいには始めていって、早取りをしていくというか、後追いでトレースするよりは、先取り、やや先気味のほうが望ましいのではないかと感触的なところでは思いました。

プラス、MAGとオープン・コンサルテーションって、この中身は多分河内さんもキャッチアップしていただけると思うんですが、多分ここに出てきたこんなものが来るんじゃないかみたいな予測というか、セッションへの大骨づくりというか、屋台骨づくりのところがあると思うので、その情報も見つつ、多分こんなものが2022に来るんじゃないかというところでもらみつつ、そののをしていくと。そうすると、必然的にセッション2次募集が前倒しになって、後々で土壇場にならずに本当の意味で2022事前会合ができるのではないかと思います。

【前村】 なるほど、ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

これ、今後どういうふうに進めていきますかね。今、2022事前会合あるいは本会合と言ってしまおう

か、に対しては、3月ぐらいにセッションの1次募集を開始すると。したがって、それに向けて準備をしていくと。そうするとまた、プログラム委員会であったりとか、そういうふうな組成をそろそろ考えていけないといけないという感じになってしまいますよね。

それで、ちょっとスケジュールというか、カレンダーを今見て、次の活発化チームが3週ケージンスを守るとすれば7日、その次が28なので、28にはもう1次募集を始めることを決めるということなんですけども、そういうふうなことで議論を進めていっていいですかね。そんなイメージで何か今やっておかなきゃいけないことというふうなことで、皆さんお気づきになることがあれば声を上げていただきたいところです。

本田さん、お願いします。

【本田】 中身もそうなんですけど、今まで2回事前会合というか、何というか、対外的なイベントをやってみて思ったことが、どうしてもコーディネーター依存というか、発表者依存になってしまっている嫌いがあるので、企画構成のところから含めて、もう少し第三者的なコーディネーションとしての目が入っていくほうが望ましいと思っています。

基本的なことですが、タイムスケジュールについても、それぞれの方がディスカッションというよりも、それぞれの方のシンポジウムの発言で終わってしまっている感じがしますので、より深い議論の深化とか、深めるということとかを考えると、皆さんのプレゼンテーション、それぞれの方が言いたいことは別として、きちんと議論をする、そして会場とも、会場というのは聴衆側ともきちんとコミュニケーション、インタラクティブなコミュニケーションができるというのが私は理想だと思うので。もし今までのやり方を踏襲するのであれば。そうじゃなくて、単なる基調講演みたいな形にしたいのであれば、それはそれでまた別のやり方ですけれども。

そういった意味で、プログラム委員会、委員会はいいいんですけれども、今までの、一番最初のときのようにただ選考する審査だけなんですという認識ではなくて、プログラムをつくり上げていくところの準備段階、そしてコーディネーションというところまで責任を持っていくほうがよりよいのではないかと。そこがいわば実際の本番運営もある程度関与して、形で、負荷を分散した形で実現にこぎ着けていくというのがより望ましいのではないかと考えています。

【前村】 ありがとうございます。高松さん。

【高松】 ありがとうございます。ちょっと解決策みたいなのが浮かばない状態でのコメントなんですけど、改めてこのスケジュールとか、あと、事前会合、本会合と呼ぶのかみたいなお話を聞いていると、NRIの組織化という部分が大事なのかなと思いました。今までの事前イベントもですけど、結局誰主催なのみたいな話がなかなか、結局有志の集まりでという形になっていますけど、そこがはっきり組織化していなかったがために、エンゲージメントも難しかったり、あと、開催案内を出すときとかも、この人たち誰なんだろうみたいな集まりになってしまっているというところがあったので、組織化の議論を進めないといけないんだなと思いましたというコメントが1つ。

もう一つが、やっぱり組織化の議論ってどうやったら進むんだろうという話を以前からこの打合せでずっとしているかと思うんですけど、その際に、大分前に、結局、政府の側が思い描いている大きい線

表のところとか、大きい実行委員会みたいな、そういったところの図とも協調、協力できるみたいな形ってどうだろうみたいなのを踏まえながら検討できるというよねみたいな話をしていたような気がしていて、今日の飯田さんのお話聞いているとそういったところも考えていくのは非常に大変そうな状況なんだなというふうにお伺いすると、どうやって組織化の議論を進めたもんかなと改めて思ったという、すいません、感想なんですけど。

【前村】 ありがとうございます。それに対して、ツーフィンガーというんですけど、手挙げるんですけど、組織化に関しては、おかげさまでといいますか、活発化チームの会合と報告会の議論という感じで、少しずつ積み上がって行って、こんな感じなんじゃないのかなというのを今日も書き出してきていまして、今日ちょっとお話をして、次には結構明確な具体的なプロポーザルで議論をできるようにしたいなという野心を持っていまして、後ほどそれはお話ししようと思います。

それで、確かに最初のうちは誰がやるんだとか、誰が主催にすればいいんだみたいな議論って、結構決着がつかずに、だから活発化チームということにしようねみたいなところもあったと思うんですけど、そういうふうなところを、結局組織化というのはソリューションとして一つ提示するというふうなところになってきていると思うんですよね。そこが、結構ここまでああでもないこうでもない議論をした結果の割といい線が出てきているんじゃないのかなというのと、これだけ議論してきているからあんまり無理はできないよねというのも分かってきているしというところで、コナレが少し出てきているんじゃないのかなと思いました。

なので、この調子で組織化も含めてちょっとやっていきましよう。少し最初のうちの志よりも小ぢんまりとしているのかもしれないんですけど、それでも、それがないと、あって初めて政府からのアプローチに対して受け止める母体もそれができるということなのかなと思っていました。

高松さん、ありがとうございます。そういうふうな課題意識というのは、私も持っていて、今こんな感じでやっているところなんじゃないのかなと思っています。

そのほかありますか。

じゃあ、このテーブルはどういうふうにしましょうかね。今のところこれくらいかなと。線表感はこれでいいですか。取りあえずは、今議論をしているのは、一番左の事前会合か、本会合かというところのやつで、3月の最初の活発化チームのときにフォーメーションができますかね。イメージありますか。こんな感じでやればフォーメーションできるかなというのがありますか。

それができたら、あとは、取りあえずのマイルストーンとしてセッション1次募集、1次募集締切り、2次募集開始、こんな流れでしょうか。この辺は、具体的にここはこうなんじゃないのとかというのがあるんだったら今伺うし、そうじゃなかったら今後考えていけばいいのかなというような感じがしています。

【上村】 上村です。よろしいでしょうか。

【前村】 お願いします。

【上村】 先ほど 2023 年の本番に巻き込まれるかもしれない人たちを引きつけるべきという話

をしましたが、そういうことを考えると、前回みたいに純粹に公募というのだけだと、そういう人たちが割と遅れて入ってきたと言ったときに、入れなくなっちゃうと思うんですね。なので、前回みたいなタイプもあるし、もうちょっと企画広告みたいなものもあるし、それから主催者というのは我々だと思うんですけど、主催者が設けるセッションみたいなものという、何層構造かつくったほうがいいと思うんですね。それで、そういう話をする場はどの辺のイメージになるのかというのを早めに決めたほうがよくて、次の会合でもいいのかもしれないですけど。前回のプログラム委員会は、公募のセレクションだけにフォーカスしていたという感じだったので、なので、その辺も含めてプログラム委員会の位置づけをちゃんと決めた上で進むのがよいと思います。なので、前回と同じようにとやるとちょっと危険な気がします。

以上です。

【前村】 そうかもしれませんね。ありがとうございます。本田さん。

【本田】 すいません。これは飯田さんにお聞きしたほうがいいのか、まだ言えないことなのか。会場については、前回のログを見ますと、候補はあるが、決まっていない、視察で決めると書いてあります。これは大体いつ頃に決まるのでしょうか。オンラインとハイブリッドの可能性等も含めて。すいません、私の声届いていますか。

【前村】 飯田さん、何か質問されているような感じです。

【飯田】 すいません。今年の会合だったのでしょうか。ちょっと今、聞きそび……。

【本田】 ごめんなさい。2023 に向けた取組というところで。ごめんなさい、間違えました、2022 です。ちょっと山崎さん、下見せていただけます？会場視察というのが一番右のところであって、これ、違うんじゃないですか。行というか、E列に持ってくるべきでは。これは日本側の準備活動のところですよ。なので、これが9月の中旬に視察があるので、会場とか、もしくはハイブリッドでやるのかとか、そこら辺のところというのは大体いつ頃をめどとされているのでしょうか、国内での決定は。

【飯田】 一応、会場の候補は今挙げていて、多分この視察を経ないと最終決定できないと思います。

一方、ハイブリッドはほぼ義務づけられている状態なので、ハイブリッド形式にはなると思います。ただ、コロナの状況次第ですが、現地の会合がメインというか、どうしても来れない人や追加的にオンラインだけで参加する人を除けばみんなが会場に来てくれるような状態を一応目指すんだと思っています。

です。例年実開催でやってきた 3,000 人とか 4,000 人とかが会場を訪れるというのに耐えられるような会場を選んで決めるわけですけど、今候補地をずっとキープしたまま、今年の後半の視察を経て最終決定するという感じだと思います。

【本田】 なるほど。まだ、じゃあ、何とも言えない状況があるということなんですね。

【飯田】 そうですね。コロナもあるので。あと、会場も、基本的には候補に上がるようなところは全部大丈夫だとは思いますが、何分国連の視察団が何言うか分からないところもありますの

で、今の時点でちょっと決め打ちはできないかなと思います。

【本田】 なるほど。いわゆる国際会議場があるようなところが大体候補に上がっているんだろうなと想像しますが、そこについて我々がどうのこの意見を言うものでもないと思うので、私がどうのこの言うわけではないですが、そういったことで何かもし意見を言う機会があるのか、もしくは何か決まったことが出てくれば、また都度、この場で御共有いただければよろしいんじゃないかなと思いましたということです。すいません、ありがとうございます。

【飯田】 なるべく早く情報共有できるように心がけていきます。

【本田】 ありがとうございます。

【前村】 結構会場のクライテリア厳しいんですね。国連警察隊が入って国連テリトリーをつくるみたいのところからやりますので、それは毎回、毎回というのか、大変だなと思いながら横で見ているんですけど。

ほかにコメントや質問などありますでしょうか。

もしよければ、こいこういった形で、この線表、徐々に埋まっていくというのがいいんだろうと思うんです。それで、組織化の部分も徐々に、今、えいやって書き入れることはできるんですけど、次回会合ぐらいでそういうふうな線が明確に出せるんじゃないのかなと思います。

それで、少なくとも 2022 の会議本番に NRI として成立しているというところは目指せるように思いますので、そんな感じで組織化のところは御認識いただければいいんじゃないのかなと思います。

よければ次の議題に行こうと思います。あと 40 分ぐらいでやっていきたいと思うんですが、河内さん、MAG の御報告を実はやっていなかったもので、それからお願いします。

【河内】 MAG は、さっき表にありましたが、第 1 回目のコンサルテーション会議が今月、2 月 22 日から 24 日の夜から深夜にかけてある予定で、それに先立ってプレミーティングみたいなのをあしたの夜中にやると言っていますね。私、経験がないので、何を話し合うのかちょっと分からないので、また結果は次回で報告させていただきますけれども。

今月の 1 回目の会議は全部バーチャルでやるということですが、次回の 6 月の会議はフェース・トゥ・フェースで対面でやることを検討しているので、日程がほかの予定にぶつかっていないかどうかもう 1 回確認したいというメールが流れて、それに対して、この話、もうされていますかね。分からないですけど、私遅れてきたので。EuroDIG、ヨーロッパの中の……。

【前村】 EuroDIG ですね。

【河内】 が 6 月 20 から 22 日なので、そこがぶつかっているから変えたほうがいいんじゃないかみたいなメールが飛び交っている状況で、少しこれ日程変わるかもしれないです。そんなところですよ。

【前村】 ありがとうございます。御質問やコメントありましたらお願いします。

なければ次行きましようかね。次は何でしたっけね。振り返りか。報告会の振り返り、そのネタがあ

りまして、アンケート集計結果を共有するというので、これは山崎さん、準備できていますよね。

【山崎】 はい。ちょっと小さいですかね。

【前村】 もう少し大きくできたらいいですね。

【山崎】 15名の方から回答いただきました。民間企業からが一番多くて、あとは似たような比率という感じです。

イベントを知ったきっかけは、活発化チームのメーリングリストが一番多いということですね。

初めて参加した人も半分近くいらしゃったということです。

参加した理由で一番多いのはインターネットガバナンスに関心があるためということですね。

セッションへの興味というところは、どこも近いかなという感じです。1番目、2番目が3番目よりちょっと多かったかなというぐらいでした。

プログラム全体の印象は、3分の2ぐらいが役に立ったと。それ以外は、普通とか、役に立たなかったという回答です。

形態については、参加形態がオンラインのみはいいんですけども、開始時刻はよいが少なく、普通という感じで、そういう意味だと何時ぐらい開始がいいのかちょっと聞くような設問にしたほうがよかったかもしれないですね。

基本50分枠というのは、悪いと書いた方が少ないとはいえ、いらしゃったということで、もっとこれは長くしろということなのか、短くしろということなのか、ちょっと分からないですけども、そういう反応がありました。

一番重要なのは自由記述のところですけども、御覧のとおりです。全部読み上げることはしないですけれども、ちょっと用語が、NRIとかが急に出てきて耳慣れないとかいうのは、用語集みたいなものを作って誰でも見れるところにつけておいて事前に見ていただくとか、そういうことが必要なのかなというところは非常に思いました。

最後から2番目、「誰のためのガバナンス」。ここは結構本質的な話じゃないかと思いますので、引き続き議論いただければという気がいたします。

そんなところですかね。あと、今回の運営については、事前会合みたいになんとなくチームをつくってなかったのが、結構綱渡りのところがあって、本田さんと河内さんには非常にお世話になりましたけれども、次回、事前会合じゃなくて本会合という話もありましたけれども、体制はしっかり事前につくっておきたいという気がいたしました。

私からはこれぐらいにして、参加された、もしくは参加されてない皆さんからの御意見をお伺いしたいなと思います。

私からは以上です。

【前村】 ありがとうございます。では、たまには口火を切らせていただいて、ガバナンス議論のところ、3つも、一番バイト数が多いのが組織化の議論のところなんですけどね。かなり内輪の内容だと見て捉えられるのはしょうがないのかなと思うのは、活発化チームの議論の継続、延長線上の中でやっているというふうなことなんだろうなと思いますね。

それで、いろいろ NRI という言葉もだし、共通のイメージが取れるか取れないかという話でいうと、新たにこういうものを聞き始めた人にはかなり難しかっただろうなとは思いますが、そういった意味では、そういう意味合いで内輪的であったというのはそうなんだろうなと思います。

それで、最後から2番目、山崎からも本質的というふうな話がありましたけども、こうやってインターネットガバナンスというものの議論は大事なんだと思っている自分たちとしても、誰のためなんだというのは、いつも、答えというのか、問いただしながら活動しなきゃいけないんじゃないのかなと思いますね。とても本質的だなと僕も思います。

こういった活動が必要だと思っているからやっているわけで、何で必要かという、恐らくはインターネットというものをマルチステークホルダーで、必ずしも専門家ではないような人たちが集まって議論をすることで、各セグメント、ステークホルダーが勉強して、それぞれのところで、それぞれの権能に従ってそれを反映していくという、今言ったのは、IGF というのがどう動くのかという行動原理みたいなものなんですけども、というものが必ずしも全ての関係者に対してぴんときてないというところをどうしていくのかというのは、ちょっとした仮説を立てて、それを解いてみてうまく動くかみたいなことをやり続けなきゃいけないのかなという感じもしますが、ちょっとそんな感じで、これはいいコメントいただいたなと思いました。

すいません、長語りしてしまいました。本田さんの手が挙がっています。

【本田】 ちょっとあまり同じことを被らないようにしたいと思いますが、皆さん、高校生の意見というのはすごくよかったなと思います。もちろん若者という、次の世代へというところもあるんですが、利用者観点というところがよかったですね。皆さんはどうしても誰のためのとなっちゃうんですけども、それはあくまでインターネットユーザー、みんなのものだということの利用者主権ということですよ。それはもちろんインターネット上でビジネスをやる人たち、それは会社であり、インターネットそのものを運営する企業もそうですが、もちろんそれぞれの利権というか、利権と言うとあれですけど、それぞれの立場の中でインターネットに参加していますけれども、やっぱりユーザーベースの視点で考えるというところが一番大事な視点だと思いましたので、そういう意味で本当に新鮮だということなので、ぜひ高校生だけに限らず、本当に市井の人がどんどん入ってくればいい。私はそういう意味では個人でというふうにあえて名乗って参加しているわけですけども、別にどこそこの企業とか、どこそこの権益のためでない、みんなが1人1票を持っているインターネットというすごいプラットフォームがあるわけですから、そのところで、これもほかの人の発言というか、虎の威を借りるわけじゃないですけども、IGF というものが、もちろん国連なり、ないしは政府提案、提唱のものではあるけど、インターネットは国によって運営されるわけでも、何かのものによって独占される、引っ張られていくということはないように、ぜひ利用者としての声を上げていく、そういったところで、内向きではない、内輪にならないように気をつけたいと思いました。

以上です。

【前村】 ありがとうございます。ほかにありますか。

上村さん、ミュートされたけど、行きます？

【上村】 さっきチャットに入れたんですけど、誰のためのガバナンスなのという疑問を当日拾えたらよかったんじゃないかと思うんですけど、拾えなかったのは、何か内輪の議論に思えちゃったからなのか、時間切れだったのか、何だったんだろうなというのが気になりました。こういうキーワードを入れてくれるだけで相当入り口の広い議論ができたんじゃないかと思ったところです。

【前村】 そうですね。これ、つまり、そういうふうに口を開いてくれればよかったのにとおっしゃっていますよね。違います？

【上村】 私がですか。

【前村】 うん。

【上村】 いや、そういうことではなくて、この人はすごく重要なポイントを指摘してくださっているのに、何でタイミングを逃したのか。

【前村】 声を上げてくれたらよかったのということですね。

【上村】 はい。そういうことです。

【前村】 何か、でも、内輪感が出てきちゃったら尻込みしちゃうというところは分からないじゃないが、そういうモードでやってないんだよねとも思うんですね。別に偉そうに言って、誰かが偉くなるわけではないんですけど、これはね。「フロアの声を書いていただきたいと思います」とかって言えばよかったのかなと思ったりもするんですけど。

本田さん。

【本田】 すいません、短く。やっぱり議論の過程を公開するんだと、そもそも考え方が、事務局、運営側と利用者側、二極というか、見えない線があるんじゃないかと、みんなが言いたい放題で言っているところを、そこをやってほしいですね。そこをまずやってほしいというのは、そこを前提としていっていただきたい。だから、そういう意味では内輪も何もなくて、あそこに来ている人はみんな言いたい放題で言っているはずだったんですけど、何で言えなかったんでしょうねというのは、私の言い方が、私も発言したので、そのしゃべり方が悪かったのか、もしくは、前村さんを責めたいわけではないんだけど、何かちょっと出し方がそういうふうな体になってしまったのか何なのかというところは、ぜひ、今後、これ非常に重要なところなので、参加者意識というところ、そこをぜひ再設定していきたいなと私からも思いました。

【前村】 そうですね。誰でも発言してよいはずなのに、これは強調してもいいのかもしれないですね。逆にというのか、組織化のセッションは、パネルにしなくてみんなでやろうねと冒頭では書いたんですけど、そう言うだけでもそうなるわけではない。呪文は難しいなという感じがしました。

そのほかいかがでしょうか。

この沈黙の中で、高校生は確かに衝撃的でしたね。若干失礼かもしれないんですけども、必ずしもテーマに合ったことをおっしゃっていたわけでもないと思ったんですよ。ちょっと違うかもしれないんですけど。なんですけど、あれだけクリアに意見を、それそのものとしてちゃんと理路が通っていることを高校生で言えるんだという、すごい強烈な爽快感というか、爽やかな感じというのがあったので、これちょっとユースをどうにかしたいよななんて思いますよね。ユース IGF って、わざわざユースにスポットライトを当てているのも IGF なんです。なんていうことを思いました。それはちょっと別の かもしれないんですけどね。別のポジションからの発言なのかもしれないですけど。

高松さん、お願いします。

【高松】 向こうからの質問が出やすくなるにはどうしたらみたいあたりなんですけど、まず、この間のイベントを振り返ってみると、時間がすごくぎりぎりな感じで、質疑が1個ぐらいなら取れるぐらいな進行だったと記憶しており、そうなったときに、その貴重な1個を自分のこんな質問で埋めてしまっていていいのかみたいに思ってちょっとちゅうちょしちゃう人はいるんじゃないかなと思いました。質疑の時間、ある程度余裕持たせられると、まずは時間的にはいいと思います。

じゃあ、御自由にどうぞと言ってしゃべるかということ、私がほかのイベントとかで同様のことをしたときのことを考えると、まあまあ出ないことがやっぱり多くて、となると、結局、Zoomのポールとか、共通の質問を終わった後に1個みんなに投げかけて、そこに書き込みで、設問の選択というより、意見を書き込んでもらうとか、そういうような形で、手を挙げなくても意見が集められるみたいな方法がとれると、発言をするきっかけとか、あとは実際に手を挙げて発言しなくても、進行する人がこんなふうに考えている人がいるんですねというのを紹介したりとかできるんじゃないかなと思いました。

【前村】 ありがとうございます。時間が足りない、議論時間が足りないというのは結構古くて新しい問題だなと思いましたね。

私があんまり仕事とか関係ないところで平場にいて何か発言しようとするときには、発言しちゃうんですけどね。そういうたちなのかなというのか、もちろん参加者からの意見を欲しいんだろうと思うからだったりもするんですけど、なかなかそういうふうなメンタリティーというのは共有されているわけではないのかなという感じがしますね。

そのほかいかがでしょうか。

それでは、このアンケート結果に関しても、資料として共有されますので、これを踏まえて今後のイベント運営に役立てていければいいんじゃないのかなと思います。

ありがとうございました。

それで次の話ですが、今後の体制です。私から、すいません、まだ共有していない資料ですけども、今から投影しようと思います。

今、スライドのほう見えていると思います。この前の報告会の資料をちょっと上書きした、ちょっと修正したという感じのものになっています。

組織化なんですけども、活動の目的と活動内容というところのスライドからプラスアルファしました。こういうことをやる組織をつくろうとしているんだよねというふうなことで、イベントを開催するんでしょうねと。NRIとして要求されるものは年次会合1回ができればいいんですけど、報告会というセンスも結構今までの活動の中ではあったということなので、最低限、年次会合が1回。事前会合を年次会合と言うのかなみたいな議論もありましたが、それが1回というのが必須であって、報告会というのも何やかんやでやりたくなくてやるのかなというふうな感じもするんですけども、そういうことをやる組織をつくるんだということですよ。

それと、国内IGF活動の活発化というのは、これは原資が許す限りであり、コーカスと書いちゃいましたけど、活発化チームのような、この辺の方々のことを指していますが、の活動量に応じてできたりできなかったりするというふうなところなんだろうと思います。

というので、いま一度これ確認をしておきたい。これでいいですよ。この組織をつくることによって、NRIとして認知されるものをつくって、NRIの認知に足るアクティビティーやオブリゲーションを満たしていくというふうなことです。ここに関して、いや、そうじゃないんじゃないのかというふうなことがあるんだったら、今のうちに意見表明していただきたいんですけども、思い切りこの前提で進んでいきたい、進んでいくべきだと思っています。いかがでしょうか。どうですかね、そういうポイント。大丈夫ならいいんですけど。

なので、最初のほうには、これとJapan IGFの関係はどうなんだとか、これがNRIになるのかというふうな議論があったんですけども、そうです、これがNRIになるんですよというふうなところにステップをしていこうとしています。それに当たっては議論を積み重ねて、いろんな方でオープンにボトムアップでという、そういう原則論に立ち返った議論のモードをつくって今こうやってやっているというふうなことです。最終的には、現在、Japan IGFということでコーディネーショングループというところに一団いるものがNIEを名乗っているんですけども、そこがこちらに発展的解消していくというふうな、この辺の言葉遣いというのは構成員それぞれによって違うのかもしれないんですけど、そういうイメージを共有しているということで私は理解しています。

今の辺りで違和感があるんだったら表明していただけるといいんですが、ないのであれば次に行こうかなと思います。

あと、確認したいことの2つ目というのは、これは同じことですね。

それで次なんですけども、主に議論になったのはやっぱり主体の問題なんじゃないのかなということです。誰が主体になるんですかねと。資金の拠出者は単なるドナーなんですかねというふうなことです。

ここが一つ大きな論点かなと思っているんですけども、一つは、EuroDIGの場合に、こういうふうなスライドを出したんですけども、会合内容やエンゲージメントに責任を持つのがオープンコミュニティのほうで、総会や理事会みたいなところは組織の経営であり、経営管理でありというふうなところに責任を持っているというふうなすみ分けをしていると。

そのすみ分け、こういうふうな独立というのはできますかねと。つまり、恐らくは、組織運営をするところのチャーターの中に、議論内容は一定のグループの自由にさせてあげるんだというふうなことを

書くみたいなのが必要なのかなと。それを書いたら、それを守っていく必要が出てきますので、書き込んだらちゃんとワークするのかなというふうなことですかね。

というのと、もう一つは、総会と理事会をどうというふうに構成するんですか。ここは一般参加者だろうと。拠出したからといって、拠出した人だけに投票権とか影響力があるということじゃないでしょうというふうなことで、トレードオフで、そうは言っても何か影響力を及ぼせないものに対してドネーションするというのも正当化できないなみたいな議論があったんですけども、例えば、これはちょっと私案というやつなんですけども、資金を拠出しようとしているところはそれなりに重要なインターネットのステークホルダーであるはずなんですよね。それと、必ずしも資金を出さないステークホルダー、消費者や市民社会というセグメントで、この方々は、市民の立場なので、なかなか資金を供出しにくいわけですよ。ですので、そもそも拠出は難しいが参画が欠かせないステークホルダーだということで、そういうふうな取扱いで総会や理事会の中での議決権みたいなものを何らか定義することが可能かなと。そういうイメージで検討していくと答えがあるかなというところを皆さん今日議論していただきたいと思うんです。もしそこに目星が付きそうなのであれば、その方向でチャーターのドラフトをやっていこうかなと思います。

参画が難しいってどうしてですかというのは、そうは言ってなくて、そもそも拠出は難しいが参画が欠かせないというふうなことを言いました。それで答えていますでしょうか。

【 】 すいません、拠出が難しいって、額が少なくなるということですね。一口5,000とか1万とかではなくてということですか。

【前村】 個人会員というのは、アドミンは死にます。必ずしもできる手じゃないと思います。

堀田さんの手が挙がりました。お願いします。

【堀田】 このページでいうと、総会と理事会、総会って、組織運営、ごめんなさい、組織運営と内容の会がある。

【前村】 組織運営の会。

【堀田】 どっち側の総会を言っているんですか。

【前村】 組織運営の会です。1,000 万なりの予算を持った組織の取り回し。こっちの左側の人たちということですね、EuroDIG でいうと。

【堀田】 もう一つの理事会は？

【前村】 理事会も同じところにいます。このジェネラルアッセンブリとボードのイメージで言っていました。ごめんなさい。分かりにくかったかもしれない。

【堀田】 じゃあ、例えば MAG みたいなのは、内容側ですけど、それはまた別なんですネ。

【前村】 MAG をつくろうとすれば右側だと思いますネ。

【堀田】 多分つくらないと運営ができないと思いますけど。

【前村】 そうですね。プログラム編成とかというのはコミュニティーにやってもらうということにするとすると、MAG みたいなのをつくらなきゃいけないですね。

【堀田】 総会とか理事会はあくまでも会を組織として保つために存在するんですね。

【前村】 そうですね。それがそのポイントで、組織運営と議論内容、活動内容の独立というのを実現できるかというところを考えています。

【堀田】 消費者や市民社会は組織の運営に関わりたいのかもしれないというのは下に書いてあることですね。

【前村】 そうです。かもしれないよりもちょっと突っ込んでいるかもしれないですね。そういう人もいたほうがいいのではないかと、EuroDIG の構成を見ながら思ったという感じですかね。

【堀田】 私の感覚はちょっと違って、消費者とか市民社会は別に組織を運営したいわけじゃない。議論内容、活動内容の例えば MAG というのがあるのなら、そこに参加して、自由に活動できるベース、組織としてのベースを組織の運営側が提供すればいいんじゃないかと思っていただけ。

【本田】 本田です。堀田さんの意見とほぼ似ているんですけど、口だけ出す人もいてもいいし、お金だけ出す人もいてもいいと思うし、お金を出したから口出さないといけないとか、そういうことではない。両方別に好きなほうで選べればいいと思いますし、そもそも4つのステークホルダーをそろえるというか、皆さん平等に入るということでしたら、別に個人会員が、例えば1,000円とか2,000円とかではちょっと取り扱う手数料でほぼペイしちゃうから駄目かもしれないけど、1万円ぐらいだったら出したいという人もいますから、そういう生協みたいな運営の仕方、大いにありだと思います。

【前村】 それは必ずしも簡単じゃないんですけどね。

【堀田】 堀田ですけど、もう一ついいですかね。

【前村】 お願いします。

【堀田】 前のホームページで、個人と企業、それぞれそれぞれが参加するかどうかみたいな話があったと思うんですけど、前の何ページかちょっと忘れたんですけど。

【前村】 これかな。これですね。

【堀田】 ここで言っている活動というのは、内容のほうですね。

【前村】 内容のほうですね。

【堀田】 活動主体が企業というのは何なんですかね。今の IGF の活動主体は企業プラス個人ですか。個人しかいないように思うんですけど、単にその個人が企業の利益を代表しているわけじゃない。企業の利益についてよく知っていて、その立場でしゃべっているだけで、企業が活動しているというものではないのが IGF だというふうに私は感覚として思っているんですけど、ここはどうなんですかね。もしかしたら違うのかもしれないですが。

【前村】 どうでしょうね。確かにそういうふうな整理というのはあり得るんですね。考え方

あると思いますね。企業の意向を帯びた個人ではないか。

【堀田】 私はフェイスブックですと言ってしゃべっているわけじゃないですよ。

【前村】 なるほど。それはどうだろうな。

【堀田】 プレゼンするときはフェイスブックで整理したものをプレゼンしているかもしれませんが、例えば議論に入ったときに、フェイスブック全体を代表してその人がしゃべっているわけではないという感覚、私は持っていたんですけど、それは私間違っているかもしれないです。

【前村】 これはいろんな方で見方が違うかもしれないですね。ただ、例えばプライベートセクターとかでも、プライベートセクターのプレーヤー、ICC BASIS みたいなところというのは、朝ミーティングをして作戦会議をして出ていくみたいなどころ、聞いていますので、そういった意味ではプライベートセクターとしてすごく活動しているんだろうなというふうな感じはしていたので、そうすると、それがもはや個人と言えるのだろうかなんていうことを思ってしまう。という話は、多分加藤さんに、今、本田さん、ちょっとすいません、待ってくださいと言って加藤さんに御発言いただくといろいろと分かるかもしれないですね。

【加藤】 すいません。かなりいろいろな内容、コンセプトは皆さん固まってきたような、こういうことがいいなど。要するに、経営的なことと実際いろんな活動ですね、IGF 活動というのはやっぱり切り離すとかですね。だけど、出資もうまく受け入れられる受皿をつくるという、そういうことをどうやってつくるかということだと思んですけども、少しそういう意味で具体的に法的な構造とか、その辺の議論も考えといたほうがいいのかと思います。EuroDIG の場合、スイスの民法に基づいているとありましたけど、恐らく日本もそういう法律でということになると、僕がまず思ったのは一般社団法人なのか。法的な形をつくるとしたらですね。いろんな寄附なりお金を集めて、それを公平にかつ問題なく運用していくという意味だと、中長期で考えるとやっぱりそういう法人なり形がないと、やっぱり経理が不透明になったりとか、そういう批判があったり、誰がどういう責任持つんだなんていうことが起こらないとも限らないので、やはりある程度恒久的な仕組みであれば、一般社団法人のようなもの考えたほうがいいんじゃないかと思うんです。

もし一般社団法人であるとする、法的には主体は社員と言うんですよね。社員というのが2人以上、それで、それが法人が社員になって、その人たちが寄附をしてもいいですし、個人ももちろんなれる。ただ、法人なり個人なりが入る社員というのがいて、その人たちが集まって最高意思決定機関を持つのが社員総会で、それが総会とここで言われている言葉なんです。同時に一般社団法人の場合、たしか理事という言い方だったと思いますが、組織の代表者、株式会社でいえば取締役とか役員という、そういう役員のようなもの、理事をつくらなきゃいけない。理事というのは、理事の人たちを意思決定するために理事会という形にしてもいい。そうすると、ここで言っているボードみたいなイメージになってくるんですね。

そういう人たちが組織としての運営予算を例えば決めて、いろんな人からお金を集める活動をしたり、大きく今年はどういう活動をしようとか、そういうことを承認はするけれど、実際そういうことに対して、意見は別の実際活動している人たちから上がってくるという仕組みになって、よくあるのが、そういう中で委員会なり、タスクフォースなり、そういう意思決定と直接は関係ないグループをいろいろつ

くって、そういうところから案をもらって、形の上では、社員総会なり、その間、ボードというか、理事会というのをつくとしたら、理事会が承認して、年に1回社員総会で予算とその年の決算を承認するという、そういう形になるんじゃないかと思うんです。

だから、こういう段階で言葉をどういう組織にするかということを決めた上で、今みたいな言葉にあって、僕は一般社団法人の今申し上げたようなので十分できるのかなと。法人会員、個人会員、それぞれが社員として入って、なるべく僕は社員は広くして、あんまり限定的な社員にしないで総会はやったほうがいいと思うんですけど、実際の運営上は、社員総会で、どれだけの出席があって、どれだけの賛成があったというのが必要になってきて、社員がむやみに広がってしまうと、予算、決算の承認という非常に単純なこともできなくなっちゃったりするので、その辺の運営の仕方は、経験がある人も含めて、どういうふうにやるのがいいのかということを考えてほうがいいんですけど、実際は、IGFの場合、集まっていられちゃう方、そんなに多くないので。僕が関与しているので、数千人とか、そういう単位でも一応やれているんですけども、ただそうなってくると、委任状を取らないと、社員総会で決めるべき最低限の予算、決算のような承認とか、役員の選任とか、理事の選任とか、そんなようなことも難しくなるので、その辺の詳細を決めておけば、今申し上げたように、形を例えば一般社団法人にして、その中に委員会活動なり、タスクフォースなりという中で、IGFのいろんな活動をやっているって、実際の活動はそこで実質的に行っていくというやり方、今までずっと議論していただいたことがここで当てはまるのかなと思っております。

以上です。

【前村】 ありがとうございます。すいません、今の御指摘、とてもありがたく、ちょっと広げていきたいんですけど、その前に、IGFの活動主体というのは、企業から出てきてもやっぱり個人だと思われませんか、それともあれは企業だと思われませんか。

【加藤】 企業を代表して発言しますと言っても、言っているのは個人ですよ。だけど、それは個人でも企業でもどちらでもよくて、さっき申し上げたように、そういう団体の会員というのは個人でも法人でもなれるので、どちらでもいいのかなと。

ただ、そういう意味で、IGFのいろんなこれまでの会合にしても、団体としての発言もあれば、会社としての発言もあれば、個人としての発言、どれもありますよね。それはどれでもいいんじゃないかと僕は思います。

【前村】 なるほど。分かりました。ありがとうございます。

堀田さんの手が拳がっています。堀田さん。

【堀田】 堀田です。加藤さん、どうもありがとうございます。加藤さんがおっしゃったことよく分かりました。

あと、一般社団法人がいいんじゃないかというのは、いいというか、でうまくいくんじゃないかと。私も最初からそういうふうに思っていて、一つちょっと整理したほうがいいかなというのは、社団法人の会員というのは、企業とか個人が入ってもいいのかもしれないですけど、ここに書いてある活動主体というのは、オープンエンドで出入り自由というものであるべきだろうと私は思っていて、だとす

ると、ここに書いてある活動主体に参加する組織や個人というのは社団法人の会員とは違ったほうがいいんじゃないか。定義上ですね。

【加藤】 僕、賛成です。すいません、割り込んで。さっきちょっと申し上げたのは、決算、予算とかに全員の承認が必要とか、そういう意味で社員を広げ、社員って一般社団法人の言葉ですけど、広げてしまうと、今のような全員を入れなきゃいけないということになって、やっぱり運用上ちょっと違うのかなと思うので、一応社員というのはもう少し限定的でいいし、堀田さん言われたとおり、一緒になくていいということになると思います。

【堀田】 同じ意見です。ありがとうございます。

【前村】 ありがとうございます。そうですね。これ、社団にするというところまで、この資料は、この資料というのはほぼほぼ報告会の資料なんですけど、書いてないんですよ。なぜなら 1,000 万だとできないかもしれないと思ったからなんですけど。今、社団のほうがいい。私も自分の雇い主、社団ですし、ほかの社団の役員もやっていますので、2パターンで、どちらも随分違うんですね、それもね。なんていうものを見ているので、それなりのことは分かっているつもりなんですけど、今加藤さんのおっしゃり方で思ったのは、確かに任意で会計とかやって監査とかやったとしても、社団でやるよりも劣るといえるのか、社団のほうが透明的にちゃんとしているという感じには絶対なりませんよね。そういうふうなアドバンテージがあるんだろうなと思います。社団化すると幾らぐらいになるかなんていうことも考えに入れて考えようかなと思います。

ほかありますでしょうか。あと、上村さんがすごく重要なことをチャットに書いているんですけど。

【上村】 じゃあ、ついでに、今手を挙げたので。

【前村】 お願いします。

【上村】 まず EuroDIG がきっかけではあったにしても、同じ組織形態にはならないということだと理解をしました。ただ、今日も小畑さんいらっしゃらないですけど、小畑さんといろいろ話をしている、日本社会でお金を集めるにはこういう法人を前に出すしかないんだろうなというのは、諦めの境地で理解をしているので、その辺が多分ボトムラインというんですか、落としどころなのだろうという気はします。

それで、ただ、コミュニティからの信頼を受けているということをもう少し積極的に私は表したほうがいいと思うんですね。先ほど加藤さんのお話の中で、コミュニティの人たちの意見を反映する場があればいいというような御提案あったように理解したんですけど、それだとちょっと心もとない気がするんですね。

というのは、心もとないというのは、規模が小さくなるということもありますし、それを結局、一般社団法人が誰の信頼を得るかを選ぶわけですよ。なので、ちょっとそれは私は物足りないと思います。

なので、そこはただ一般社団法人の枠組みだと難しいかもしれないと思いつつ、できるだけチェリーピックした有識者が公益性を担保するみたいな形にならないようにしないと、申し訳ないですけど、JPNIC と似たようなことになってしまうのではないかと思います。なので、その設計がどうできるか

というのが気になりました。

ただ、あまりこればかり言うと、じゃあ、総務省が委員会をつくって、そこで事業者を選定しますかみたいな話になっちゃうかもしれないので、それもあんまりなのかなという気もするので、どの辺が現実的なところなのか、私にも答えはありませんけど、ちょっとそこは気になります。

以上です。

【前村】 ありがとうございます。加藤さんの手が挙がっています。どうぞ。

【加藤】 上村さん御指摘のところもすごくよく分かるんですけども、結局、例えば ICANN にしてもそうですけれども、それを担保するために、例えばペリサインが幾らお金出しても、実際の運営は理事会が中心であって、その理事会は、いろんな constituency の構成メンバーから成るとして理事会の枠組みまで決めちゃっているわけですね。今回どこまでそれやるかというのはありますけれども、先ほどのような社団法人であれば、それで理事会というものを決めれば、恐らくそういう理事のバックグラウンドとか、その辺をうまく分けることによっていろんなステークホルダーを代表できるとか、そういう形にできると思いますし、前にも話出ましたけれども、たとえ、法人で大変大きな金額を寄附している人であっても社員総会では1票であるとか、そういうことを決めることによって、そういう人がすごい発言力を持つということを抑えるという、そういう形で担保しておかないと、逆に言うと、こういう組織を法人化するなりすることによってそれができるわけですね。そうじゃないと、そこが曖昧な組織であればあるほど、実際運用で変なことされてしまって、その透明性が確保できない可能性があるんで、やはりそこはむしろルールを決めておくというアプローチのほうが IGF の場合いいのかなと思います。

【上村】 私の頭の中は NomCom (ノミネーティングコミッティー) をつくるというのがよぎったんですけど、そんなイメージですか。

【加藤】 NomCom の前提としてこういうふうにはバランスをとるということを決めるということでしょうね。

【上村】 そうなのであれば分かるような気がしますけど、ただ今日何より気がかりなのは、加藤さんが鼻声なのが気がかりなので。

【加藤】 失礼しました。大丈夫ですよ。

【上村】 お大事になさってください。

【加藤】 ありがとうございます。ちょっと花粉症が始まったかもしれないですね。失礼しました。

【前村】 NomCom か。ICANN の例というのはちょっとトリッキーですね。

【加藤】 極端過ぎるかもしれないですね。

【前村】 極端に理想を追い求めたらああなるということなんですよ。あれはがちがちにコミュニティから意見が言えるようになって、意見言われたらちゃんと返さなきゃいけないような感じ

ですごい固い契りをちぎってやっているというのが ICANN だと思うので。コミュニティからの信任を得ているということをどうやって担保するのかというのが、これを考えていくと、ICANN 的な追い求め方をしたくなるというのもそうなのかもしれないなと思いました。ちょっと難しいところに来た感じがしますね。

というわけで、皆さん、ほかに何か御意見などありましたらいただきたいところながら、一方で時間は時間でちょっといっちゃっていますけど、でも、それでさえぎりたくもないので、手が挙がるのを待ったりなんかして。

最後のところのコミュニティの信頼を得る形でこういう組織をつくるというのは、結局今までなかなかうまくできなかったところを、活発化チームというところはそれをどうにか払拭しようとして石にかじりついて頑張っているというところなんじゃないのかなと思うので、引き続きやっていきたいと思うところですけども、本田さんの手が挙がりました。

【本田】 ちょっと今の話の流れが自分の中で整理できないところもあるんですが、加藤さんなんか言われたように、お金を出しているから発言が大きくなるのではないとか、運営理事会、いわゆる社団法人だと想定して、法人そのものの運営と活動方針を決めていくとか、そういった委員会ベースの、仮に、動きというのは分離してやれば構わないというところで、確かにそのほうが合理的だなと思いました。

ただ、堀田さんのこの消費者が内容面に関与すれば運営に関与する必要はないのではというところは、ちょっとよくコメントが、聞き逃してしまったのかもしれないですが、私はちょっとそれは別に、むしろ何で個人セクターが運営に関与する必要はないのはって、それがログに残るのはちょっと。両論併記のほうがいいのかなと。

【前村】 両論あったほうが良いと思うんですね。

【堀田】 私もここ、必要ないとは多分言っていないと思うんですけど。

【前村】 ごめんなさい。

【堀田】 組織運営に関与したいのだろうかという。

【本田】 難しげに思うということですよ。

【堀田】 うん。

【本田】 もう一つは、一々何か入ってきて、何かとめる、法人かどうかは別、個人かどうかは別として、邪魔をするとか、全体のコンセンサスが取れているのに、恣意的に介入してきて、俺も1票持っているんだから否決だ、否決だと、全部否決していたら何にも前に進みませんよねって、そういうことが起きちゃうのは困るよねという話が多分全体の中のラフな認識、認識のおおむね似通ったところかななんて思ったんですが、そんな感じなんですかね。

【前村】 そこはまだ両方の言い方があるみたいな感じですかね。

【本田】 私の意見は、別に立場とかじゃなくて、それは別に法人としてもどこそこ株式会社の

渉外部部長として出てくる、公共政策部長として出てくる、それは構わないと思いますし、むしろウェルカムだと思うんですが、だからといって、その部長に対して、個人セクターで誰が行った人が、おかしいよね、おたくの会社でやっていること云々って、インターネットガバナンスから見てどうなのと言ったときに、いや、そこは平等に戦えるプラットフォームにさせていただきたいんですよ。それでなかったら別に今までのやり方でやっていることと変わりませんし、それだったら JPNIC か JAIPA のか分かりませんが、そこの中の大きな組織のところでは意見を収斂していけばそれでいいじゃないということになるわけで、それをちょっと、私も勉強してないですけど、インターネットガバナンスの精神、どうなのかなというふうに、そこマッチしているかどうかはちょっと不思議に思うし、私が思っているのはちょっと違うぞということとは意見として言っときます。

【前村】 内容面の議論においてそういうふうなやり取りがあるということかもしれないんですけど、ちょっとポイントがあんまりつかめませんでした。ごめんなさい。

【本田】 運営も別に、セクター等は自由に入りたい人はやればいい。ただ、名前だけの人はいてもらっても困るかなという気がしますけど。

【前村】 入るからには責任を全うしなきゃいけないと思いますけどね。

【本田】 そうそう。言いたい放題言って邪魔するということではないと思うんですけど、ただ、お金出している、出していないにかかわらず……。

【前村】 それはそうですね。

【本田】 入れる権利は持ってもいいと。みんなが入らないといけないというわけではない。委員会だけ加盟する人がいてもいいとは思いますが。

【前村】 分かりました。10分超になってきたので、あまりここで超過しないようにしたいと思うんですけども、次のステップとして、今日も改めていろんな議論ができましたので、次なんですけど、もう少し具体的にこういうふうな、ストローマン・プロポーザルみたいなものですかね、たたき台というのか、をつくっていきたいと思います。それによって議論をするようにしたいと思います。

事務局希望は年間1,000万という前提に対して、取りあえずあまり何も言われていなくて、そもそも1,000万がちゃんと集まるかというのもまだちゃんと見えてはないわけなんですけど、ひとまずをこれを前提とするんですけども、社団化を見据えるとすると、この辺の費用感がどう変わるかというのはスタディーしておこうと思います。

というわけで、次回に向けて、毎回、当日、こういうスライドを出してどうですかと言っているような気がするので、もう少し早めにサブミットして皆さんにお考えいただくということを次回はやりたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願いします。

というわけで、こちら、ありがとうございます。この辺にしておきたいと思います。

あと、多分これで次回はどうするという話になると思います。3週間後というケーデンスで、3月7日、7時開始ということで問題ないでしょうか

2022年のスケジュールという意味でいうと、次回、プログラム委員会をつくるとか何とかという本会合の年次会合の組織実施イメージをつくっていきなさいかね。

ごめんなさい。To Doの確認のところ、その下のところ読んでいました。

To Doは、あともう一つ、本会合の組織化に向けた何か準備が必要じゃないですかね。これをどうしましょうかね。集まったらパンとできますかね。どなたかに本会合の組織化に関して、何か紛らわしいですか、本会合の運営体制に関して仕切っていただけるととてもうれしいんですけど、どなたかお願いできませんかね。

【本田】 すいません、仕切るといのは、この前上村さんがやってくださったようなたたき台資料を作るということですか。

【前村】 この前上村さんにやっていただいたのは、プログラムの構成をドラフトしてもらったというのは上村さんがやってくださったことなんですけど、今回は、本会合に向けて1次募集、2次募集ってやって、プログラム委員会をつくってみたいところなので、ちょっと性質違うかなと思うんですよ。

【本田】 あんまりそんな難しくなくて、プログラム委員を募集したら駄目なんですか。

【前村】 去年の事前会合ってそういうふうにはやってないんですよ。

【本田】 去年は、エンゲージメントとあとプログラム。

【前村】 そうですね。そんな感じでしていましたね。

【本田】 チームをつくりました。

【前村】 一旦それはDoneということにしましょうということにしたんですけど、この次の会合ではその辺どうしようかという議論をして、それでタイムラインって合うのかな。

【本田】 ちょっと間に合わない気が。間に合わないというのは、ごめんなさい、これを見せていただきましたんですけど、セッション1次募集開始というところを3月下旬と仮にセットすると、前倒しにセットすると、上旬にはそこから始まっていかないといけないので、次回の会合のときにはおおむねこの方でいきましょうという、プログラム委員会の候補者というか、もしくはこの方たちにおいていましょうというふうにしていかないと間に合わなくなるのではないですかということで、だから、別に、そんなにあんまり考えずに、やり方をやるために考えずに、もうえいやということで、プログラム委員を募集していったらいいんじゃないですかというか、するんじゃないですかと僕は思っています。

【前村】 プログラム委員会って、前はセレクションするためのプログラム委員会だったんですけど、今回は、今日の議論からすると、それプラス、セッションサポートというのか、もう少しサポート的なプログラム委員会が求められるような感じだったんですよ。なので、パンとプログラム委員会募集というふうにはできないなと思ったんですよ。

【堀田】 堀田です。

【前村】 堀田さん、お願いします。

【堀田】 前回のプログラム委員会、結果的に、今、前村さんがおっしゃったようなものになったんですけど、最初のときは、キーノートスピーチを置くとか、もっと充実したプログラムをフルセットにして、どうやって進めていこうかと言って、結果として募集するだけというか、提案型のセッションだけを採用しましょうと決めたんですね。

なので、前回と同じであっちゃ駄目だというのはおっしゃるとおりなんですけど、本田さんがおっしゃるように、これ、かなり仕組んで、ちゃんと活発化会合の中でこれで行きましょうというのを何回か相談しながらでないとプログラムの全体は決められないんですよ。だから審査員だけ選びますというのではもちろんない。もっと役割は重いと思います。

【前村】 どうでしょうかね。

【本田】 すいません。お言葉を返すつもりはないんですけど、世界中に向けて、世界中というか、日本中に向けてプログラム委員を募集しようというのなら構わないんですけど、別にここに今、大体この会議にお出になっている方、もしくはMLの中にいらっしゃる方をお願いをしていくというか、その中から募っていくことになるわけなので、別に、ある程度プログラム委員、プログラム委員でやるということ、この委員会方式でやるというふうに仮決めというか、おおむね決まっているのであれば、候補者は決めていくほうがよりステップとしては合理的ではないかなと。そもそもプログラム委員会でやるということに決めないといけないんだったら、それは次回、やり方の議論をしたほうがいいですけど、そここのところの違いだけだと。

【山崎】 山崎ですけど、すいません、私、手を挙げられないみたいなので、いきなりしゃべってしまいますけども、プログラム委員会はつくることになると思うんですけども、カバーする範囲とか、そういうことをいろいろ考えると、いきなり募集だけして、それで走らすというのはかなり乱暴で、そう思うと、3月7日設立というのはかなり無理で、体制を3月7日で決めて、その次に具体的にどうするかというのを決めて、それから募集を開始するというのが現実的じゃないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

【前村】 それが現実的だと思いました、今。いかがでしょう、皆さん。

堀田さん、お願いします。

【堀田】 本田さんおっしゃるのが一番近道だと思うので、去年の秋も結果的に活発化チームが主催だったから、活発化チームの中で審査員を選んで、それに乗っかってくれる人という誘い方だったんですよ。今回も、NRIとして主催するというのは諦めて、活発化チームが秋また主催するということであれば、割にスピーディーに、プログラム委員を我々の知っている何十人の中から選んでやるというので走れるとは思いますがね。あんまりまた形式を考えると動かないですよというの、本田さんがおっしゃるとおりだと思います。

【前村】 であれば、プログラム委員を募集しますみたいな感じのアクションをして、募集に従って、次の活発化チーム、15回目にプログラム委員会を設立して、そこでどういうふうにやっていこうかという議論をやれば良い、そんな感じでしょうか。

【本田】 本田です。堀田さんの応援が、応援というか、意見があったので、全く言っていたいたとおりで、格好いい組織をつくるのも大事なんですけど、一番の目的は、日本で何も広がっていない IGF という概念を広めることが目的なので、そのためにはやっぱり中身を深くしていかないとけないし、リーチですね、イメージと言っていましたけど、そのところも広めておかないといけないので、プログラムをつくりながら、そして広げていくという、その両方を模索していくというためには、そんなにやり方にこだわらず、取りあえずえいやとやってみて、プログラム委員会の中でもうちょっといろいろ議論していくというほうが、いわゆる全体会合、今やっている全体会合とプログラム、具備していけばいいのではないかと思っています。

【前村】 ありがとうございます。次のアクション、プログラム員の募集というのをどんな感じでやればいいのかというのを僕の頭の中に展開できてなくて、ひょっとしてこんな感じで募集すればいいんじゃないというふうなものを下書きしていただけたら何かすると、ああ、そういうことだったのねというふうなのが分かりやすくなると思うんですよね。というのをどなたかお願いできないでしょうかね。堀田さんをお願いするというのも大変恐縮なんですけども、堀田さんがイメージを一番お持ちで、昨年の実績もあったりなんかするので、お分かりかなと思いました。

【堀田】 指名されちゃいました。昨年に倣ってですかね。プログラム委員をどうしましょう。本田さんからプログラムの公募って書かれましたけど、公募するということはまた時間がかかるんですよ。

【前村】 それはそうですね。

【本田】 MLの中でやりたい人いませんか、それがいいんじゃないでしょうかという。

【前村】 活発化チームの中でボランティアを募るということですね。

【堀田】 そういう意味ですね。分かりました。それをベースに案をつくってみます。

【前村】 で、僕やりますよとメーリングリストの上で手挙げていただければいいと思うんですけど、もしくは手挙げたのが最初のファーストハンドには見えなくなったほうがいいのかもかもしれないけど、いずれにしても、堀田さん、大変恐縮なんですけども、下書きしていただくと助かります。

【本田】 堀田さんにも協力させていただけるのであれば、私もとは思いますが、よろしくをお願いします。

【前村】 もうすぐ 30 分オーバーになってしまうので、足早に行きましょう。

というわけで、To Do の確認ですけども、プログラム委員募集案内のドラフトを堀田さん書いていただくということになっています。

次回の打合せは、レギュラーのスケジュールに、あと 2022 年のスケジュールなんですけど、年次会合のプログラム募集についてとか何か、そういうことが入るんじゃないですかね。

そんなところでしょうか。何か抜け、漏れありますか。

そのほか情報共有や相談事項などありますか。高松さんの手が挙がりました。

【高松】 時間があれなんですけど、メーリングリストは、今 IGF2021 というのを使っていて。

【前村】 なっていますね、そういえば。

【高松】 というのがちょっと気になっており、どのタイミングで切り替えるかを出したほうがいいんだろうなと思っていました。

【前村】 そもそも 2021 でよかったのかみたいなこともありますけど、山崎さん、どうしようか。

【山崎】 活発化とかという名前にすべきでしたね。何で 2021 にしたのか、ちょっと今はもう覚えてないですけども、年末か、年度末かが切替えのタイミングとしてはいいんじゃないかと思えますけども、ですから、今から年度末までの間には切り替えたいと思いますので、2022 をつくるのもまた切替えが必要なので、活発化という。

【前村】 活発化という、ローマ字が格好いいかどうかよく分からない、格好よくなくてもいいんだけど、何かちょっと考えなきゃいけない。

【 】 この際、格好はあまり気にしないことにして。

【前村】 もし妙案があったらいただければ、それになびくかもしれません。

【山崎】 お伝えできればと思いますが、御提案があれば。

【前村】 高松さん、御指摘ありがとうございます。

そのほかありますか。

ないようでしたら、すいません、タイムキープ下手で申し訳ありませんが、その分だけいろんな御意見いただいて、いろんな御意見をいただくことはとてもそれ自体はいいことだと思いました。ありがとうございました。

それでは、3月7日の次の会合、第15回目でお会いしたいと思います。本日はこれにてお開きにしたいと思います。

ありがとうございました。皆さん、

以上